

## 改正金融機能強化法に基づく経営強化計画の履行状況の概要（平成21年9月期実績）

〔平成21年3月31日 資本参加：北洋銀行 1,000億円、福邦銀行 60億円、南日本銀行 150億円〕  
 〔平成21年9月30日 資本参加：みちのく銀行 200億円、きらやか銀行 200億円、第三銀行 300億円、山梨県民信組 450億円〕

### 1. 経営改善の目標

#### 1) コア業務純益 又は コア業務純益ROA（選択制）

（単位：億円、％）

	計画始期の水準	21年9月期		始期比	計画比	コメント
		計画	実績			
北洋	351	185	208	+ 66	+ 23	○ 資金利益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったものの、賞与支給率の圧縮や合併による経費削減効果等により、コア業務純益は計画を上回った。
福邦	0.26	0.30	0.32	+ 0.06	+ 0.02	○ 貸出金利息や役務取引等収益が計画を下回ったものの、有価証券利息配当金が計画を上回ったこと等から、コア業務純益ROAは計画を上回った。
南日本	29	17	13	▲ 1	▲ 4	○ 貸出金の平均残高及び利回りが計画を下回ったこと等から、コア業務純益は計画を下回った。
みちのく	54	29	36	+ 18	+ 7	○ 資金利益が有価証券利回の上昇等により計画を上回ったこと、設備関係費用を中心に経費の削減に努めたこと等から、コア業務純益は計画を上回った。
きらやか	53	25	22	▲ 8	▲ 3	○ 資金利益が貸出金利回の低下により、役務取引等利益が振込手数料等の減少により各々計画を下回ったこと等から、コア業務純益は計画を下回った。
第三	64	33	33	+ 2	+ 0	○ 人件費を中心に経費の削減に努めたこと等から、コア業務純益は計画を上回った。

注1) コア業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 債券等関係損益、コア業務純益ROA = コア業務純益 ÷ 総資産

注2) コア業務純益の「計画始期の水準」は通期計数のため、「始期比」は21年9月期の実績（半期計数）を2倍して比較

注3) 福邦銀行は「コア業務純益ROA」を、その他の銀行は「コア業務純益」を選択

## 2) 業務粗利益経費率 (OHR)

(単位:%)

	計画始期の水準	21年9月期		始期比	計画比	コメント
		計画	実績			
北 洋	74.39	52.57	50.84	▲ 23.55	▲ 1.73	○ 賞与支給率の圧縮や合併による経費削減効果等により、OHRは計画を下回った(改善)。
福 邦	77.87	68.73	66.51	▲ 11.36	▲ 2.22	○ 経費がほぼ計画通りに推移する中、業務粗利益が国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったことから、OHRは計画を下回った。
南日本	274.22	63.77	68.09	▲ 206.13	+ 4.32	○ 業務粗利益が貸出金利息の減少等により計画を下回る一方、人件費を中心に経費が計画を上回ったことから、OHRは計画を上回った。
みちのく	95.29	64.22	61.22	▲ 34.07	▲ 3.00	○ 業務粗利益が有価証券利回の上昇等より計画を上回ったこと、設備関係費用を中心に経費の削減に努めたこと等から、OHRは計画を下回った。
きらやか	65.21	60.86	62.03	▲ 3.18	+ 1.17	○ 経費が計画通りで推移したが、資金利益及び役務取引等利益が計画を下回ったこと等から、OHRは計画を上回った。
第 三	105.21	65.30	62.95	▲ 42.26	▲ 2.35	○ 業務粗利益が国債等債券関係損益の改善等により計画を上回ったこと、人件費を中心に経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。

注) 業務粗利益経費率 = (経費 - 機械化関連費用) ÷ 業務粗利益

## 2. 中小企業金融の円滑化の目標

### 1) 中小企業向け貸出残高・比率

(単位:億円、%)

	計画始期の水準	21年9月期		始期比	計画比	コメント	
		計画	実績				
北 洋	残高	17,427	17,828	<b>18,482</b>	+ 1,055	+ 654	○ 営業推進体制や経営改善支援体制の強化、緊急保証制度の活用、法人取引先の新規開拓や創業・新事業開拓支援の強化等により、貸出残高、貸出比率ともに計画を上回った。
	比率	24.25	24.74	<b>25.98</b>	+ 1.73	+ 1.24	
福 邦	残高	1,639	1,653	<b>1,659</b>	+ 19	+ 6	○ 緊急保証制度の積極的な取組み、全店一斉訪問キャンペーン(6,000先訪問運動)の実施等により、貸出残高、貸出比率ともに計画を上回った。
	比率	36.05	36.43	<b>37.09</b>	+ 1.04	+ 0.66	
南日本	残高	2,435	2,536	<b>2,556</b>	+ 120	+ 19	○ 緊急保証制度や新商品の積極的な活用等により、地場産業へ積極的に融資対応したこと等により、多くの業種で貸出が増加し、貸出残高、貸出比率ともに計画を上回った。
	比率	37.45	38.68	<b>38.89</b>	+ 1.44	+ 0.21	
みちのく	残高	4,168	4,180	<b>4,207</b>	+ 39	+ 27	○ 緊急保証制度の積極的な活用、新規顧客をターゲットとした商品の活用等により、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は低下。
	比率	22.78	22.79	<b>22.27</b>	▲ 0.51	▲ 0.52	
きらやか	残高	4,588	4,595	<b>4,639</b>	+ 51	+ 44	○ 営業推進体制の強化、コールセンターを活用した営業活動の実践等により、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は低下。
	比率	40.26	40.29	<b>38.77</b>	▲ 1.49	▲ 1.52	
第 三	残高	5,595	5,635	<b>5,640</b>	+ 44	+ 4	○ 緊急保証制度の活用やコベナンツ活用型融資等の取組み強化、融資重点推進地域における事業融資基盤の拡充への取組み等により、貸出残高は計画を上回った。有価証券評価差額金や預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は低下。
	比率	32.48	32.48	<b>31.77</b>	▲ 0.71	▲ 0.71	
山梨県民 信組	残高	1,725	1,676	<b>1,684</b>	▲ 41	+ 7	○ 信用保証協会の保証付融資や、事業再生等を目的とした融資に積極的に取り組んだことから、貸出残高、貸出比率ともに計画を上回った。
	比率	38.21	34.93	<b>35.80</b>	▲ 2.41	+ 0.87	

注) 中小企業向け貸出比率 = 中小企業向け貸出残高(個人向けを除く) ÷ 総資産

## 2) 経営改善支援先割合

(単位:%)

	計画始期の水準	平成21年9月期		始期比	計画比	コメント
		計画	実績			
北 洋	2.76	2.87	3.98	+ 1.22	+ 1.11	○ 創業・新事業開拓支援の強化、経営改善計画の策定支援、担保・保証に過度に依存しない融資(私募債、動産・債権担保融資)の積極的な取組み等により、計画を上回った。
福 邦	2.71	3.36	6.00	+ 3.29	+ 2.64	○ 経営改善計画の策定支援や事業再生支援、「融資特別推進枠」等を活用した担保・保証に過度に依存しない融資の積極的な推進等により、計画を上回った。
南日本	1.04	1.05	1.59	+ 0.55	+ 0.54	○ 鹿児島県・市の制度資金を活用した創業・新事業開拓支援、新商品の活用など担保・保証に過度に依存しない融資(スコアリングを活用した融資商品)の積極的な取組み等により、計画を上回った。
みちのく	4.32	4.48	4.34	+ 0.02	▲ 0.14	○ 経営改善支援活動等に積極的に取り組んだものの、ビジネスローン(担保・保証に過度に依存しない融資)に代えて、緊急保証制度を強力に推進したこと等から、計画を下回った。
きらやか	3.41	3.43	4.80	+ 1.39	+ 1.37	○ 担保・保証に過度に依存しない融資(ビジネスローン)の積極的な取組みや経営改善計画の策定支援に取り組んだこと等から、計画を上回った。
第 三	0.95	0.98	0.99	+ 0.04	+ 0.01	○ 取引先の経営課題等の洗い出しや解決策の検討・提案、経営改善計画の策定支援、担保・保証に過度に依存しない融資(スコアリング等を活用した融資)等に取り組み、ほぼ計画通りに進捗。
山梨県民信組	2.04	2.78	2.78	+ 0.74	0.00	○ 企業支援部を中心に、きめ細かな経営相談や事業再生支援等に取り組んだことから、ほぼ計画通りに進捗。

注) 経営改善支援先割合 = 経営改善支援先数 ÷ 取引先総数